



## 学習会

「安倍政権と弱体化するメディア」  
～NHKの現状から考える～

講師：戸崎賢二さん  
元NHKディレクター

11月17日(日) 参加費無料

13:00開場 13:30開会

北部公民館大会議室

東武アーバンパークライン江戸川台駅下車8分

## 改憲に挙党態勢 安倍内閣の本気度

なりふり構わず側近で固めた異常な内閣。「お友達内閣」と言われようが、辞任経験があろうが、かまわず、安倍首相の考える最強の布陣だろうと言われます。内閣と党役員は日本会議議連の幹部で固めただけでなく、国会の憲法審査会の要職に据え、異様な配置は焦りの表れとも見えます。

安倍首相は記者会見で「安定と挑戦の内閣だ」と強調し、憲法改正に関し「困難な挑戦だが必ずや成し遂げる」とその本気度をあらわにしました。

所信表明では「令和の時代に、日本がどのような国を目指すのか。……憲法審査会で議論していく。国民への責任を果たそうではありませんか。」と訴え。

二階俊博幹事長もこれまで改憲議論に距離を置きましたが本腰を入れ始めました。地元の和歌山では約1千人の集会を開催。10月からは全国で集会を開き、世論の喚起を図る方針です。

岸田文雄政調会長も10月28日、憲法をテーマに「地方政調会」をさいたま市で開き桜井よしこ氏が講演し改憲の必要性を呼び掛けた。岸田氏は「令和の時代の憲法の在り方を考える契機に、きょうの日がなることを心から願っている」と呼び掛け、今後各地で開催予定。安倍氏の後の総理の座を狙った動きだと言われ、こうして本心は別としても徐々に自民党が改憲へと動いていく危険を軽視できません。

日本会議とは……戦後の民主主義を否定し、明治憲法下の天皇中心の国家体制復活を主張する国家主義、右翼総結集の団体。元号法制化、教育基本法改定、憲法九条廃止、侵略戦争を肯定し、戦争を美化する教科書を作り採択運動を主導してきた。安倍総理以下、大部分の自民党議員が参加。

## 自衛隊を中東派遣！

「調査、研究のため」？

アメリカのイラン制裁強化で緊張が高まっています。イランを敵視するトランプ大統領は6月に中東オマーン湾で発生したタンカー2隻（1隻は日本、もう1隻はノルウェーの船）への攻撃はイランの責任だと主張しています（イランは否定）。



イギリスのタンカーがイランに拿捕されそうになったりしたため英国政府は警戒レベルを最高水準に引き上げ、駆逐艦1隻を追加派遣。こうした緊張に対し、トランプ氏は「アメリカファースト」政策で中東での外国船の警備はしない（日本も危なかったら勝手に自分で警備しろ）というのです。

これをうけて安倍内閣が自衛隊派遣を検討し始めたのです。しかし調査、研究とは見え透いたウソ。菅氏はトランプ大統領が安倍総理に参加を求めている有志連合へはいまのところ参加しないとしています。大方の見方は疑問です。

いったん自衛隊が海外派遣されたら、戦闘が始まったときに現地において「調査のためです」などと言っていられる筈がありません。かつて小泉内閣は「PKOには参加するが戦闘には加わらない」という詭弁で押し通しました。ところが安倍内閣は大きく右にかじを切り、4年前に戦争法を強行可決、場合によって海外で戦うことも自衛の範囲としてしまいました。そのためかつてと違い**戦闘への参加の危険性**が高くなっています。

ペルシャ湾までは入らないもののオマーン湾などで出かけるのです。調査・研究名目の情報収集活動としたのは国民へのゴマカシであるばかりでなく、国会の承認の必要がないからだと見られています。こうした手法がまかり通れば自衛隊の海外派兵に歯止めが効かなくなります。

ヨーロッパ諸国は過去に領土や石油利権などを巡って熾烈な争いをしながら、中東地域を食い物にして来ましたが、しかし日本はそうした争いに加わることがなく（機会がなかった？）憲法9条の下で戦後も中東戦争にかかわらずにいたため友好関係を維持してきたのです。しかしいまトランプ＝安倍ラインで反イランの連合に仲間入りし戦闘にさせられようとしています。

# オスプレイ 暫定配備

木更津市は9月30日、陸自木更津駐屯地へのオスプレイの暫定配備計画に関し、配備期間や安全性などの説明を求めた質問書を防衛省に送付しました。県も同日付で、質問書を提出しました。木更津市の質問書は、(1)暫定配備の見通しと内容(2)木更津駐屯地を選定した理由(3)オスプレイの安全性(4)生活環境への影響(5)周辺産業への影響一の五項目からなるものです。

もともと自衛隊へのオスプレイ配備は佐賀空港を予定しましたが、地元の了解が得られず、工事も進んでいないのに購入してしまい、いまはアメリカに置かれており、自衛隊員が現地で訓練を受けているのです。質問書は佐賀空港での駐屯地建設予定が5年先となっているので木更津への暫定配備は5年なのか。また、他の基地でなく木更津駐屯地を選んだ理由。そして問題のオスプレイを安全と判断した根拠。騒音や振動対策、漁業補償などを問うものです。また、基本操縦訓練を行う場合、木更津市の空域に限られるのか、石油化学コンビナートなど工場上空を飛行するかなども質問。

オスプレイに反対だけでなく、暫定と称して結局居座るのではないかと疑念が広がっています。

## 東電が東海第二原発へ資金支援 どこにそんな金が

東京電力が日本原子力発電(原電)の東海第二原発(茨城県)への2200億円の資金支援を正式に決めました。東電は「経済性や再稼働に向けた対応状況などを総合的に勘案した」と言うが、再稼働のためには地元同意が必要なのに見通しもない中どんな計算をしたのでしょうか。

東電自体が福島第一原発事故を起こし、巨額の賠償を背負っており、廃炉費用も含めて何兆円かかるかわからず、それを国に依存し、実質国有化されているのです。そんな会社が他の会社の原発を支援するなど許されるのでしょうか。財源は税金であり、電気代なのです。すべての人から徴収する電気代は消費税にも似ています。すべての国民に発言の権利があり、すべきでしょう。

電力小売りが全面自由化されて販売競争が激しくなっています。「本当に経済合理性を考えて判断している」というが、東海第二再稼働のための最低条件の当面の安全対策工事とテロ対策施設の建設の計約2350億円の回収分などを上乗せすると、原電から買う電気はかなり割高になるはずです。

何が何でも再稼働強行の構えを許すわけにはいきません。



東海第二原発

ラグビーワールドカップ  
が日本中で大きく盛り上がり

## 自己紹介

それは、各国代表のスーパープレーはもとより、生身の体を激しくぶつけあうからこそ、どのスポーツよりも、スポーツマンシップを互いに尊重する姿に感動をあげたからでしょう。圧倒的多数が「勝てない」という予測をはねのけ、自分たちの信じた道を歩み続けた日本代表のプレーにも共感が広がりました。

昭和40年後半生まれの私にとって「戦争」が身近になったのは、母方の祖父の遺影の写真が軍服姿だったり、漫画「はだしのゲン」を通じて知ったぐらいです。

20世紀は数多くの戦争が地球規模で各地で行われ、21世紀は大戦の痛苦を活かした外交努力が目立ちます。人間社会の発達を感じつつも、その平和な社会を享受しながら、他者を一方的に排除したり、侮蔑する流れの強まりにも危機感を感じます。

それは安倍内閣の閣僚の行為や発言に端を発しているのですが、国民の中に、戦争ゲームやサイバーゲームで実際に人と撃ち合うゲームが盛んになっているからです。

極度の競争をあおられ、格差や差別を当然視する制度や社会に希望を見いだせず、過度なストレスを抱え込む国民の中に、ピストルを撃ってスカッとしたという「要求」が広がっているからかもしれません。また、低投票率にみられるように政治不信があるからかもしれません。それよりも、9条の会など平和を求める各団体の取組みが、国民、とりわけ若者に浸透できず、選択肢にまだ入っていないからかもしれません。

9条の会の活動は、国民の中にある悶々とした日々に光を大いに与える活動ですが、決して派手さはありません。また、戦後日本が歩んできた歩みをさらに豊かに継続し、次世代へ「平和」のバトンを渡す歴史に裏付けられた、かけがえのない活動ですが、華やかさがあるわけでもありません。小さな勇気と少しの時間で、誰でもできる活動だからこそ、英雄伝説ができるわけでもありません。しかし、ラグビーの華やかな「トライ」の前には、献身的なパスやタックルがあります。固く結ばれた「スクラム」の健闘があります。私はこれからも、「へいわ」のために自分でできる一歩を前へ踏み出します。ぜひ、ご一緒に「平和」を築く一歩…あなただからこそできる一歩を前に進めてみませんか。

小田桐 仙

## おおたかの森駅宣伝と署名

11月9日(土) 15:30~16:30

カンパはこちらの郵便振替口座へ  
00130-5-464735 口座名 九条の会流